

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0357
施設名	光明第二保育園
施設所在地	東京都小金井市貫井南町1-13-17
法人名	社会福祉法人 多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

興味を引出す環境

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

<0歳児保育目標・和の保育方針>子どもの立場に立って考えながら一人一人の発達に合わせた援助を行う。様々な経験を通して、自分で考え行動できる力を育む。

個々の成長発達に配慮し、室内環境を整えた。生活習慣を中心に身の回りことへの興味関心の広がる(11月頃)掴まり立ちや立位からしゃがむなどの動作に着目。成長に合わせた視線の高さで活動を好む姿が見られた。

2. 活動スケジュール

6月～2月 個々の成長発達に合わせ生活習慣を中心に室内環境を整える。

2月～3月 身体発達、成長により子ども達の視線が高くなり、玩具を棚などに置き、立位で玩具など遊びを展開する姿が見られる。また、低月齢の子は、立位が不安定の為、活動しやすい遊具を導入。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

座る、掴まる、立つ、しゃがむなど個々の成長過程に合わせた玩具の検討と導入。五感への働きかけや手指の発達を促すことのできる素材も視野に入れた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

可動式のため室内外へ移動が可能。子ども達の活動に合わせて設置。切り替えパーツを変更することで子ども達の興味が広がる。また、切り替えパーツだけではなく、覗き窓や穴などの仕掛けに気づき、新たな発見の嬉しさと楽しさを感じる姿が見られた。子ども達の気付きに初めは、保育者と一緒にやり取りを楽しんでいたが、楽しさを知り、子ども達同士でのやり取りなど遊びに発展。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

同じ場所や遊具を使いたい為、取り合いになる場面があったが「じゅんばんね」など保育者が仲立ちし、少しの間待つ姿に繋がる。また「かして」など言葉でのやり取りが見られたり、小窓をのぞき込む子を見つけて反対側に移動。互いの姿を確認し、子ども達だけの遊びに発展。



個々の発達に合わせ活動
スペースを確保



立つ、しゃがむ、入れる、
出すなど運動機能が発達



保育者に見守られ、順番
を待ち、じっくり観察。



身体発達や視野でじゅく
りと遊び込む



どうやって使うのか他者
がやっているのを観察



窓を発見。遊びが発展

窓から見えるお友だちを確認し「いないいないば〜」



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

個々の発達段階や興味に合わせて、室内空間や玩具を工夫した環境設定を行った。これまでは固定された環境下での遊びに制限を感じることもありましたが、今回、可動式の仕切りやパーツを導入したことで、子ども達の動きや遊びの広がりに合わせて柔軟に空間を変化させることができた。また、空間を多目的に活用できることにより、子ども達が自分達で遊びを見つけ、集中して取り組む姿が見られた。特に、覗き穴などの仕掛けが子ども同士の視線のやり取りや「かして」といった言葉の掛け合いを促すきっかけとなり、社会性の育ちにつながる新たな発見となる。今後は、子どもたちが「次はこうしたい」と意欲をさらに引き出せるよう素材の追加や空間の再構成を継続的に行っていく。